

秋号

多賀

No.62

令和元年10月1日発行

奉祝
天皇陛下御即位
令和元年



十月から三月の祭事暦

十月

- 神嘗祭遥拝 十月 十七日(木)
- 献茶式 十月 二十一日(月)
- 即位礼当日祭 十月 二十二日(火)

十一月

- 明治祭 十一月 三日(日)
- 金咲稻荷神社例祭 十一月 八日(金)
- 臨時大祓 十一月 十三日(水)
- 大嘗祭当日祭 十一月 十四日(木)
- 大宮祭 十一月 十五日(金)
- 豊年講秋季大祭 十一月 二十三日(土)

十二月

- 御煤払式 十二月 二十日(金)
- 大祓式 十二月 三十一日(火)
- 除夜祭 十二月 三十一日(火)

一月

- 歳旦祭 一月 一日(水)
- 元始祭 一月 三日(金)
- 古札焼納式 一月 十五日(水)

二月

- 節分祭 二月 三日(月)
- 紀元祭 二月 十一日(火)
- 天長祭 二月 二十三日(日)

三月

- 祈年祭 三月 十七日(火)
- 春季皇霊祭遥拝 三月 二十一日(土)

諸祭

- 御日供祭 毎日午前七時より
- 御朔日参り 元日を除く毎月朔日の午前七時より
- 月次祭 元日を除く毎月一日・十五日・二十八日



宮司就任ご挨拶

宮司 片岡 秀和



本年は、御代替わりの御目出度い節目の年を迎えました。

一二六代の天皇陛下は、即位後朝見の儀で、「上皇陛下のこれまでの歩みに深く思いを致し、また、歴代の天皇のなさりようを心に留め、自己の研鑽に励むと共に、常に国民を思い、国民に寄り添いながら、憲法に則り、日本国及び日本国民統合の象徴としての責務を果たすことを誓い、国民の幸せと国の一層の発展、そして世界の平和を切に希望します。」と述べられました。

国民挙って、皇室の弥栄と国家の繁栄をお祈り申し上げたいと存じます。

我国は太古以来、神事をもとに国家、国民の安寧を祈られ伝統を継承される皇室を中心に発展して参りました。皇室と共に祖先たちが今日まで身をもって残された歴史と精神が息づく麗しい国柄を後世に伝えて行く事が現世に生きる我々の使命であると存じます。

さて、この度、役員皆様のご推挙により去る七月十五日付で神社本庁より当社の宮司を拜命致しました。

文字通り浅学非才にて、決してその器ではありませんが、尊い神社の宮司の任をお預かりする責務の重さに身の引き締まる思いを致しております。

此の上は先人達が、お示しいただいた御教えを継承し、ご神慮に叶い奉るよう祭祀を只中に据え、至誠を尽くして神社の奉護と御神徳の発揚に、精励いたす所存であります。

ご高承の通り、当社は、過疎の進む地方神社であります。歴代宮司を始め職員が不断の努力や教化により県内外に多賀信仰を護り拓めてきた信仰の篤いお社です。

かつて多賀信仰を育んだ「坊人」の祈りに思いを致し、信仰とは、かくあらねばならないという事を懇切丁寧にご指導いただいた歴代宮司の教えを護り、次の世代に引き継がねばなりません。

向後をあくか神職として、先人たちの功績は仰ぎ見るばかりであります。時の趨勢は速く、多様化する社会に於いて、人の心の渇きが読めぬ世情の中で今必要とされる神社像とは何かを思量し、些かでも社頭の繁栄に資したいと念願する次第であります。

氏子の皆様を始め崇敬者各位に於かれましては、今後共変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。



差符を受ける曾我誠一氏

九月古例祭

七月一日、九月頭人を選定する差定式にて頭人（祭りの主役）に多賀町土田の曾我誠一氏が差定されました。

九月九日古例祭当日は晴天の中ご奉仕をいただき、多賀の秋祭りが盛大に執り行われました。

又、豊凶を占う古知古知角力では東方の多賀の里が勝ち、今年の豊作が御神威により決まりました。



豊凶を占う古知古知角力



頭人
曾我誠一

昭和19年5月11日生
多賀大社氏子総代（土田区）
略歴 日本国有鉄道大阪鉄道管理局
滋賀県警察官
滋賀県大津土木事務所
滋賀県立精神保健福祉センター

講社大祭（献幣使）

九月二十八日、講社大祭が斎行されました。本年の献幣使は東近江市乙女浜多賀講の脇 弘和様にご奉仕いただきました。

講社大祭献幣使を奉仕して

東近江市 乙女浜多賀講

脇 弘和



本年は元号が平成から令和へと改元され、新天皇がご即位なされました。その記念すべき年に全国多賀講員様を代表して、不肖私が献幣使の大役を仰せつかりました事、この上なき喜びと乙女浜多賀講の名誉と感謝申し上げます。

私が初めてお多賀さんを知ったのは、今から六十五年程前小学校五・六年生の頃に叔父と一緒に参拝に行ったのが始まりであります。

私が居ます乙女浜には古くより続く多賀講があり、今日に至るまで講員の皆様と共に多賀さんを崇敬しています。そのご縁をいただいて先代の方より多賀講のお世話係を引き継ぎこの度の献幣使奉仕となりました。

今後は大神様の御加護をいただき益々の多賀講発展を願い、講員皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。



供奉者ご紹介

森野角夫氏 木下義隆氏
井口博史氏 井口正司氏
井口誠八郎氏

豊年講秋季大祭

十一月二十三日、豊年講講員皆様より献上いただいた初穂米をお供えし豊年講秋季大祭を斎行いたします。

本年の豊年使は東近江市東五個荘地区豊年講大世話の深尾忠一郎様です。

豊年講秋季大祭豊年使を奉仕するにあたり

豊年使

ふかお ちゆういちろう
深尾 忠一郎



今年も豊年講員皆様からのお初穂米が献上され豊年講秋季大祭が大神様のご加護のもと盛大に斎行されます事をお祈り申し上げます。

振り返れば平成二十三年に前任者より豊年講大世話を仰せつかり、以降、地域の講員皆様と共に豊年講行事にご奉仕してまいりました。

お陰様で健康に日々を過ごさせていただき、平成二十年より始めました神仏霊場会巡拝は十年をかけて無事、百五十社寺満願を迎える事ができました。また趣味のグラウンドゴルフでは会長に就任させていただき地域の皆様と親しくご一緒させていただいています。

これからも神仏のご加護をいただきながら、農業を続けて行き、家族や地域の皆様と共に健康で明るい生活を送っていききたいと思っております。

令和元年 初いなほ

「大嘗祭」が斎行される令和元年の佳き年のみのりを祝して、この度「令和元年初いなほ」を奉製いたしました。



初穂料 三、〇〇〇円

大嘗祭とは天皇陛下が御即位後初めて行われる新嘗祭であり、天皇御一代に一度行われる祭祀で、数ある祭祀の中で最高の重儀とされています。令和元年十一月十四日、特別に造営された「悠紀殿」「主基殿」を中心とした「大嘗宮」において斎行されます。

当社におきましても、御本殿にて「大嘗祭当日祭」をご斎行申し上げ、奉祝の祭儀を執り行ないます。

各ご家庭にお飾りいただき、我国に伝わる悠久の歴史の一端をご一緒に祝いし、神々に感謝を捧げる事で御加護をお授かり頂ければ幸いです。

多 賀 講

永年世話係表彰

今後もかわらぬお力添えと、健やかにお暮らしの程お祈り申し上げます。
尚、被表彰者選出は現在登録されている就任年月日より抽出しました。

就任三十年世話係

大垣市	谷川 勤	大垣市	桐山 勝司	美濃市	古田 哲司	飛騨市	柚原 俊典	東近江市	村田 満央	彦根市	北沢 浩治	彦根市	藤野 幹夫	東近江市	岡本区 長	蒲生郡	石山 史郎	東近江市	小林 源嗣	東近江市	河村 政義	近江八幡市	小原 林嗣	度会郡	山崎 博昭	枚方市	梶川 嘉雄	富田林市	阪上 成美	川西市	大森美智子	倉敷市	平野 昌功	国東市	岩武 政晴
-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

就任二十年世話係

一宮市	小川 智央	新城市	鈴木 道人	知多市	石田 俊光	瀬戸市	西川 万恵	あま市	橘 幸典	岐阜市	堀 光鐘	岐阜市	辻 誠	美濃市	土本 鉄志
-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	------	-----	-----	-----	-------

就任十年世話係

郡上市	伊藤 正枝	不破郡	三輪 孝夫	稲沢市	平野 正治	大津市	原田 寿人	守山市	山岡 典	守山市	村川 文光	東近江市	柿田 正男	彦根市	牧野 達夫	甲賀市	森本 定夫	甲賀市	杉本 芳久	近江八幡市	岡谷 龍一	名張市	杉本 忠司	名張市	福岡 三男	伊賀市	山崎 秀三	伊賀市	中川 鮮成	伊賀市	大野 清治	京田辺市	吉田 利道	南丹市	神田 和行	枚方市	梶川慶太郎	篠山市	細見 敏雄	神戸市	大家喜八郎	竹田市	伊東 彰一
-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

美濃市	西部 恵司	美濃市	齋藤 興弘	美濃市	瀬川 浩志	郡上市	末武 圓	郡上市	岡田 良一	不破郡	古田 静枝	関市	谷口 充	関市	坂井 勇	草津市	鉤 吉信	彦根市	成宮 耕二	甲賀市	森地 善弘	愛知郡	川口 善弘	米原市	丸岡 博則	米原市	西村 昭夫	長浜市	橋本 邦廣	長浜市	川崎喜代一	長浜市	林 孝八	近江八幡市	喜多川秀男	近江八幡市	桐江 利雄	名張市	中野 敬三	名張市	滝本 文大	津市	茨木 修	伊賀市	服部 譲	伊賀市	山崎 泰寛	伊賀市	若狭 満夫	木津川市	山中 久英	枚方市	阪本 方章	八尾市	森口 寿	篠山市	(敬称略)
-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------	----	------	----	------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------	----	------	-----	------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------

新任講長他役員・世話係ご紹介

何卒よろしく申し上げます。

彦根市	木村 正彦	彦根市	奥 弘司	彦根市	辻 久治	彦根市	近藤 嘉男	彦根市	西川 宏	瀬戸内市	浦上 公子	長浜市	山田 賢一	丹波篠山市	大西 岩雄	甲賀市	久保喜久次	美濃市	大沢 富枝	木津川市	大西 広行	大垣市	三輪喜久雄	東大和市	山田 豊弘	郡上市	古川 敏	郡上市	井上 一郎	郡上市	渡辺 裕之	米原市	森 美穂	関市	山田 秀隆	甲賀市	大野喜久夫	交野市	奥村 静男	三田市	西田 直樹	近江八幡市	大橋 耕一	美濃加茂市	酒向 滋	度会郡	森井 富子	甲賀市	植西礼之輔	小牧市	井戸田祐司	海津市	石原 憲子	米原市	長谷部逸郎	伊賀市	福西 清重	伊賀市	田中 君子	丹波篠山市	西村 政行	丹波篠山市	高井 富明	一宮市	尾関 政弘	伊賀市	渡辺 義治	東近江市	谷 八郎	東近江市	馬場 廣一	彦根市	磯矢 節之	近江八幡市	西村 泰一郎	丹波篠山市	中澤 邦夫	長浜市	荒田 敏和	加茂郡	阿部 治子
-----	-------	-----	------	-----	------	-----	-------	-----	------	------	-------	-----	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------	------	-------	-----	-------	------	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	------	----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-------	-------	-------	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------	------	------	------	-------	-----	-------	-------	--------	-------	-------	-----	-------	-----	-------

京都府	藤中 芳博	伊賀市	東出 統子	吹田市	藤本 政子	津市	篤本 俊治	名張市	横山 裕子	度会郡	西井 良行	一宮市	後藤 昭廣	関市	加藤 直貴	春日井市	前川 成美	長浜市	池野 次男	名古屋	佐藤 和明	一宮市	堀部 洋一	川西市	荒木 正晴	蒲生郡	古株 利平	近江八幡市	中西 徳夫	蒲生郡	村井 利夫	長浜市	西尾 清一	木津川市	辻澤 浩	木津川市	新谷 知也	大津市	古家 浩	相楽郡	村城 信隆	相楽郡	宮本 実	相楽郡	奥田 一心	相楽郡	森山 高吉	相楽郡	若狭 満夫	木津川市	古川 晃	木津川市	金辻 修	堺市	辻本 博文	美濃市	伊藤 郁徳	美濃市	高橋 正一	蒲生郡	山下 幹夫	大垣市	松本 利彦	近江八幡市	丹羽 幸	名古屋	石田 純子	名古屋	竹内 正幸	野洲市	植田 慶一	蒲生郡	古田 孝之	名古屋	加藤 肇	名古屋	平野 俊哲	稲沢市	(再任を含む・敬称略)
-----	-------	-----	-------	-----	-------	----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	----	-------	------	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-------	-------	-----	-------	-----	-------	------	------	------	-------	-----	------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	------	------	------	------	----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-------	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	------	-----	-------	-----	-------------

多賀の祭り

支えた人びと

第1回

一、はじめに

全十四巻からなる『多賀大社叢書』は、多賀の祭りの歴史を学ぶためのヒントに満ちている。その一冊に、『宇曾能安利多計』という少々奇妙なタイトルをもつ書物が収録されている(写真1。原本は彦根市立図書館所蔵、写本一冊)。明確な年紀を欠くが、時代は近世のもので、当時、巷間に広まっていた世間話の類を書きとめた記録のようである。この本の冒頭に、つぎの文章が載っている。

世俗の諺に、多賀の頭にさゝれたるよりハ蜂にさゝれたがましといへり、されば持丸の曆々(歴々)ハ冬年より尻こそばく、或ハ一打を俵子に譲り坊主と成り、或ハ遠国へ逃尻かまへ、或ハ類忌の札を張、或は袖の下扨して是をきらひさくる事、蜂を払ふよりも甚し、されど…(後略)

(『多賀大社叢書 典籍篇』223ページ、ルビは原文のまま)

持丸の歴々とは、いまの言葉でいえば金持ち連中といったところ。「類忌の札」とあるのは、葬式ができた家が門口などに立てる忌中札の類であろう。

富裕層の家々が、冬に

なると、出家したり遠国への脱出を試みたり、はたまた葬儀が出たりをしたり贈賄を試みたりと、さまざま画策をする。それが「多賀の頭にさゝれ」ることを防ぐためだったというのである。

宇曾能安利多計とい

うタイトルを、ありつたけの嘘を書きならべたという意味に解釈すれば、その記述はおもしろおかしく誇張されているはずで、内容をそのまま信じることはできない。むしろ当時の人びとが毎年の「多賀の頭」のゆくえに高い関心をよせ、今年はどここのだれが「さされた」のかと、駄洒落とともに語りあう、そういった賑やかな声が聞こえてくるようである。

蜂にさされたほうがまし、などという言い回しは

琵琶湖博物館 主任学芸員
渡部 圭一(わたなべ けいいち)
昭和五十五年愛媛県生まれ。
筑波大学大学院人文社会科学研究所、
早稲田大学人間科学学術院助手等を
経て現職。

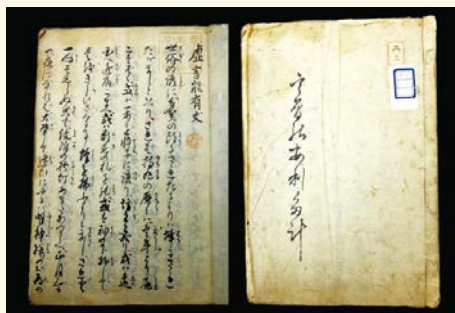


写真1 彦根市立図書館所蔵「宇曾能安利多計」

不謹慎であるとしても、多賀の祭りとこれを支えた地域社会の歴史を振り返る際に、「さす」は大切なキーワードになる。じつは多賀の祭りの伝統のユニークさは、「さす」という一言に凝縮されているといっても過言ではないのである。さす・さされるという関係を手掛かりにして、多賀大社の祭りの魅力と、ほかに類をみないその特色を読み解いてみたい。

二、頭役祭祀 — 「さす」祭り

日本の祭りの研究者のあいだでは、多賀大社の古例大祭のような祭儀習俗のことを頭役制とか頭役祭祀と呼び、これには数多くの研究蓄積がある。一般に頭役祭祀とは、中世の京の有力寺社や諸国の一宮(あつい信仰をあつめるなど、その国で第一位の社格とされた神社)で、特定の身分や階層の人々から頭人を任命し、その年の祭りのための役割(頭役)を担わせた仕組みをさす用語である。

頭役祭祀における頭人の任命は「差定」とよばれる。史料上の用語としては「さじょう」とよむことが多いが、多賀大社の祭りでは「さてい」という。多賀では四月・六月・九月の年間三度の祭りに頭人が登場するが、その差定式は、それぞれ正月三日・四月一日・六月一日に斎行される。「頭にさゝれ」といえば、まさにこの頭人の差定を受けることを意味するわけである。

三度の祭りのなかでも、四月の古例大祭の「馬頭



写真2 大御供式を終えた馬頭人

人」（写真2）の役割が絶大であったことはいまも昔も変わらない。「宇曾能安利多計」に「冬年より」とあるのも、正月早々に行われるこの馬頭人の差定式のシーズンを指している。四月の華やかな祭りまではまだかなり間があるが、年頭の差定式それ自体が社会的イベントとしての側面をもち、早くから世間の耳目を引いていたことを彷彿とさせる。

三、「さす」祭りのゆくえ

これまでに積み重ねられてきた頭役祭祀の研究を紐解くと、日本の歴史のなかで、中世前期（十二世紀〜十三世紀半ば）とよばれる古い時代には、全国の有力寺社でこの頭役祭祀が広くおこなわれていた（表1）。ところが管見のかぎり、差定という伝統的な語彙をいまなお年間行事表にとどめている神社はきわめてめずらしい。それは古い頭役祭祀の仕組みが、のちの日本の社会で急速に衰退してしまったからである。

一般に中世も後期（十三世紀後半〜十五世紀）になれば、滋賀県の各地では惣村とよばれる自治的な村が発達する。八人衆や十人衆などといい、年齢が上位の人から行事の当番を勤める仕組みをもつケ

スが多い。みずから決めたルールに従い、祭りの当番を輪番で負担するわけだ。これに比べて頭役祭祀は、神仏の力を背景にもつ神社の側が、その専権として頭人を差定する点に特徴がある。現在ではその面影を失っていたとしても、かつて頭役祭祀であったことを記録に留めている著名な祭りがいくつもある。表1に掲げたものでいえば、華麗な山鉦の巡行で著名な京都の祇園祭がそうだ。それは町衆のエネルギーを秘めた山鉦の都市祭礼としてよく知られているが、じつは古く十二〜十三世紀

表1 中世日本の主な頭役祭祀

地域	神社	祭礼・頭役名	年代
京都	八坂神社	祇園御霊会の馬上役の差定	保元2年(1157)～
	伏見稲荷大社	稲荷祭の馬上役の差定	安貞3年(1229)～
	石清水八幡宮	安居頭役の差定	元久元年(1204)～
近江	日吉大社	小五月会の馬上役の差定	保延4年(1138)～
	竹生島宝厳寺	蓮華会頭役の差定	正安元年(1299)～
	多賀大社	古例大祭の馬頭人の差定	文永6年(1269)～
大和	春日大社	おん祭の流鎗馬・田楽頭役の差定	保延2年(1136)～
東国	香取神宮	「三祭当」の差定	応永7年(1400)～
	鹿島神宮	七月祭の大祭使役の差定	長寛年間(1163-64)～

注) 豊田武『宗教制度史(豊田武著作集第5巻)』(吉川弘文館、1982年)を参考とし、とくに祇園・日吉・稲荷については瀬田勝哉「中世祇園会の一考察—馬上役制をめぐって」(『日本史研究』200、1979年)、43～45ページ、春日大社おん祭については幡鎌一弘『寺社史料と近世社会』(法藏館、2014年)、187・225ページによった。

の祇園御霊会では、馬上役を差定された有徳者たちがその役を華麗に勤め上げていたという。

差定という仕組みはなぜ衰退したのか。端的に言えば、頭人の経済的負担の大きさが壁になったからである。たとえば最近研究が進んだ奈良県最大の祭り、春日大社の春日若宮おん祭では、頭人がその負担に耐えかね、近世には領主が経費を全面的に負担するに至り、差定が形骸化していくことが明らかにされている(幡鎌一弘『寺社史料と近世社会』法藏館、二〇一四年、二二二～二二五ページ)。

こうしてみると、「世俗の諺」は、期せずして頭役祭祀というシステムの核心を言い当てていたことに気づかされる。いつてみれば、それは全国の名だたる祭りが共通に抱え込んだ問題であった。そして多くの神社がこの仕組みを放棄せざるをえなかったのに対し、ほかならず多賀大社では馬頭人の「差定」は強靱な生命力をもち、今日にいたる長い歴史を誇っているのである。

全国的にもめずらしい、長い伝統をほこる多賀の馬頭人祭は、どのようにして中世、近世、そして近代から現代という長い過程を歩んできたのだろうか。この連載では、馬頭人祭を支えてきた神社と地域社会に残された豊富な資料をもとに、容易ならざる時代と社会のなかでも祭りを維持しつづけてきた巧みな仕組み、そして祭りを支える多彩な人びとの存在を解き明かしてみたい。

初詣はお多賀さんへ

来年の干支、庚子（かのえね）の庚は、植物の成長が止まっ
て新たな形に変化しようとする状態。子は、増えるという
意味合いがあり、併せると草木の生命を始めとした新たな
命が誕生する年と考えられます。

また、動物のねずみは「子宝・働き者」というイメージも
あります。

来年は、何事に対しても労を惜しまず尽くすことにより、
新しい物事が誕生する良い年となります事を、ご祈念申し上
げます。



えと鈴	¥800	福ます	¥3,000
えと張子	¥800	熊手 (特大)	¥10,000
首振りえと張子	¥1,000	熊手 (大)	¥5,000
べにかぶら や 紅鏑矢	¥2,000	熊手 (中)	¥3,000
からずかぶら や 烏鏑矢	¥2,000	熊手 (小)	¥1,000
守護矢	¥1,000		



お子様のすこやかな成長を
ご家族でお祝いしましょう

**多賀大社で
七五三**

感動をそのまま思い出に

要予約
多賀大社 **七五三**
記念パック

祈祷 衣装 写真

3点セットで
6,200円
お得!

おひとり様 通常31,200円

25,000円 (税込)

※本販折券は追加5,000円 ※一部ブランド衣装は別途料金がかかります

受付 **9月1日開始**

期間 **10月1日~11月30日**

※写真は5名様でご予約頂いた際の撮影イメージです。

プレゼント | 七五三記念パックを御予約頂き、当日のチラシをご持参の方に贈品を差し上げます。
チラシは**衣裳室**にお渡しください。(Webチラシを印刷したもので結構です。)

多賀大社 記念パックお問い合わせ **0120-43-6160** 9:00~16:00

節分祭奉仕者募集 令和二年二月三日

還暦を祝い
第二の人生のスタートを
お多賀さんで

該当……昭和三十五年一月一日

昭和三十六年四月一日生まれの方

(同学年・ご夫婦可)

お多賀さんでは節分祭の奉仕者を
募集しています。

詳しくは担当祭儀部まで

〇七四九(四八)一一〇一



神前挙式・披露宴のご案内

夫婦の神様に永遠の愛を誓う
 お多賀さんでの挙式
 緑あふれる神聖な多賀の社は、
 四季折々の風情が
 お二人をやさしく包みます。
 また、参集殿ではご列席の皆様と
 特別なひとときをお過ごし頂けるよう、
 披露宴会場を設けております。

ウェディング見学会 開催

●日 時

令和元年12月8日(日)
 午前10時～午後5時

要予約

●イベント内容

模擬挙式・試食会&模擬披露宴
 ケーキ試食・衣裳展示&試着・
 会場コーディネイト・ウェディング相談会

詳しくは参集殿HPをご覧ください
 皆様のご来場をお待ち申し上げます

承り中
 挙式・披露宴



お申込み・お問合せは
 多賀大社参集殿まで

参集殿直通

0749-48-1103

参集殿HP

多賀大社参集殿

検索



Instagram

#多賀大社参集殿

人事

就任

【宮司】片岡 秀和 (令和元年七月十五日付)

昇進

【二級】西臺 卓哉 (令和元年八月一日付)

退職

【事務員】富田 邦子 (令和元年六月十五日付)

採用

【仕】太田 颯 (平成三十一年三月二十日付)

【舞女兼事務員】今西 七海 (平成三十一年三月十五日付)

【事務員】山本 紀美 (令和元年八月一日付)



訃報

多賀大社名譽宮司 故木村光伸 儀
 木村名譽宮司は、去る七月二十八日、病により急逝
 致しました。

ここに生前のご厚誼に御礼申し上げ謹んでご報告申
 上げます。

木村名譽宮司は昭和十九年、多賀の地で生を受け幼
 少期を過ごしました。

極めて学識に優れ國學院大學卒業後、神職資格を取
 得し、大阪の生國魂神社続いて新潟の彌彦神社に奉職。
 昭和五十五年には、生まれ故郷である多賀へ赴任して
 まいりました。

爾来、神明奉仕に精勤され平成二十三年、第十六代
 多賀大社宮司に就任。

祭祀、厳修。事務、明快。応接、丁寧。をモットー
 に神社の護持運営と職員への指導に取り組まれました。
 読書を好み古事にも精通されていきましたので、神社
 の書物の編纂にも尽力されました。

平成二十七年、ご勇退され名譽宮司の称号を受けま
 した。

勇退後はウォーキングを日課とし、道中境内でお目
 にかかると明るくご挨拶を頂けたのが昨日のように思
 い出されます。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

尚、ご当家のご意向により葬儀は近親者のみの密葬
 で執り行われました。

編集 後記

令和という新しい御代と共に当社も新しい宮司となり新体制を迎える事となりました。
 古い言葉に「先ず神事 後に他事」とあります。
 いつの時代も我々は祭祀の厳修を第一とするも、次には参拝者が如何に気持ち良くお参
 り出来るかを目指し今後とも努力して参りたいと考えております。

記念講演会

天皇陛下と 大嘗祭

奉祝
天皇陛下御即位
大嘗祭
奉祝行事

日時

令和元年 11月14日(木)

式典 午後1時～

講演会 午後1時30分～

場所

多賀大社 参集殿

聴講無料・予約不要

講師

(株)ルネッサンス・ユニバーシティ 代表取締役

おだ ぜんこう
小田 全宏 先生



プロフィール

1958年、彦根市生まれ。東京大学法学部を卒業後、(財)松下政経塾に入塾。松下幸之助翁指導のもと、一貫して人間教育を研究。1991年、株式会社ルネッサンス・ユニバーシティを設立。多くの企業で「陽転思考」を中心とした講演と人材教育実践活動を行い好評を博す。NPO法人「日本政策フロンティア」を設立し理事長を務める傍ら、認定NPO法人「富士山世界遺産国民会議」運営委員長も兼任。2019年2月、一般社団法人ジャパン・スピリット協会を発足、日本人の心を伝える活動を全国で開始する。

(株)ルネッサンス・ユニバーシティ 代表取締役
認定 NPO法人 富士山世界遺産国民会議 運営委員長
一般社団法人 未来音楽企画 代表理事

NPO法人 日本政策フロンティア 理事長
アクティブ・ブレイン協会 会長
一般社団法人 ジャパン・スピリット協会 代表理事

主な著書

『陽転思考』(日本コンサルタントグループ) 『松下幸之助翁 82の教え』(小学館)
『脳のしつけ』(サンマーク出版) 『新・陽転思考』(日本コンサルタントグループ)
『なぜ富士山は世界遺産になったのか』(PHP研究所) 他著書多数